

「大阪人の『かわいい』～「笑い」との接点」

かつて織田作之助は「大阪人はリアリズムを好む」といい、さらに「リアリズムをつきつめると笑いとなる」と述べました。今回の研究会では、日常生活のなかでの「かわいい」というリアリズム感覚が、大阪では本当に「笑い」につながるかを検証します。

# 「大阪人の『かわいい』

# 「笑い」との接点」

参加  
無料

要申込

定員 = 50名 (先着順)

2019 11月16日(土)  
13:00 ~ 16:00

関西大学千里山キャンパス

なにわ大阪研究センター 1F セミナー室

■ プログラム

● 13:00 開会にあたって  
浦和男 関西大学なにわ大阪研究センター研究員

● 13:05 ~ 14:35  
講演「大阪人はなぜ『お笑い偏差値』の勝者か？  
いい大人が“かわいい”を平然と武器にする、  
この恐るべき帝国の底力をヨソモノ目線で分解する」  
山崎祥之氏 有限会社パルチザン代表取締役

地元で「話がつまらん」といじめられていた奴が、他所に引っ越したとたんいきなりクラスの人気者になる「大阪弁ネイティブ3割増理論」を筆頭に、「日常会話がすでに漫才」「アメちゃんあげる」の餡は常に欠かさない」「商店街で、知らない人からすれ違いざまに指ピストルで“バーン”と撃たれても必ず“ウツ”とリアクションする」「服を褒められると“安かってん”と答える”などなど、非大阪圏から注がれる大阪人のお笑い偏差値の高さへのまなざしは枚挙にいとまがありません。その伝説の根源は数々あれど、大阪人が無自覚なまま“かわいい”を武器にする狡猾さを育てているからではないか。そんな仮説を、ワークショップなども交え、無自覚な参加者の方々と共に検証していきます。

● 14:55 ~ 15:55  
ワークショップ「『Osaka かわいい』を考える」  
木戸彩恵 関西大学文学部准教授

大阪には独自の文化があり、「なにわ大阪研究センター」ではこれまでも皆さんとともに、それが何かを考えて参りました。今回は、ワークショップ形式で、何かを「かわいい」と感じる大阪(人)のセンスの共通性を手探りで探し当てたいと思います。「Osaka かわいい」には、おもしろいが含まれるのか？ 世代を超えた共通性があるのかを一緒に考えましょう。参加の皆さんにつきましては、ご自身がかわいいと感じる「もの(物・者・モノ、ジャンルは問いません)」の写真や画像を3つほど印刷してお持ちいただけますよう、お願い申し上げます。

● 16:00 閉会

